

法規提要目次

衆議院議員撰舉法

衆議院議員撰舉法罰則補則

衆議院議員撰舉法施行規則

衆議院議員撰舉法施行規則取扱規定

府縣會議員撰舉規則

議會并議員保護規定

市町村會議員撰舉規則

府縣會議員撰舉規則衆議院議員法罰則補則

才適用規定

議會及政社法



四十二

四十五

五十七

六十三

九十五

九十七

百五

百六

Handwritten annotations: 251, 019, 62, 30, and a circled '2' at the top left.

保安條例

豫戒令

百廿三

百廿八

法律第三號

（明治二十二年二月十一日）

衆議院議員撰舉法

第一章

撰舉區畫

第一條

衆議院ノ議員

ハ各府縣ノ撰舉區ニ於テ之ヲ

撰舉セシム其ノ撰舉區及各撰舉區ニ於テ撰舉スヘ

キ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條

府縣知事ハ其

ノ府縣ノ撰舉區ノ撰舉ヲ監督

ス

撰舉區ノ撰舉ハ都長又ハ市長其ノ撰舉長トナリ

ノヲ管理ス

第三條

一撰舉區ニシテ敷都市ニ涉ルトキハ府縣知

一

事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命シ撰舉長タラシムヘシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數撰舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ撰舉長タラシムヘシ

第五條 撰舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 撰舉人ノ資格

第六條 撰舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ

住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅拾五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被撰人ノ資格

第八條 被撰人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子
滿三十歳以上コシテ撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前
滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓
以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿
三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ
被撰人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト
相兼スルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被

撰人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其
ノ撰舉區ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被撰人タル
コトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉
セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘ
キモノトス

第四章

撰舉人及ヒ被撰人ニ通スル
規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被撰人

タルコトヲ得ス

六

- 一 瘋癲白痴ノ者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者
- 三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者
- 六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

第五章

撰舉人名簿

七

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長
 ナシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者
 ナ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其
 一本ヲ差出サシムヘシ
 撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年
 月納ムル所ノ直接國稅ノ總額并ニ納稅地ヲ記載ス
 ヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ
 調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シ
 タル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スベ

シ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタ
 ル場合ニ於テハ各區長ナシテ其ノ區内ノ人名簿
 ナ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於
 テ郡長其撰舉長ナリタルトキハ市長ヲシテ其人
 名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其撰舉長トナリタル
 トキハ市長其市内ノ人名簿ヲ調製スベシ

第二十條 撰舉人ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直
 接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若

ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ
其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差
出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨ
リ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一
冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ
備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スベシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一
撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管理ノ郡役所又
ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ

人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ
其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申
立其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其効
ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルト
キハ其理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ
二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正
當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人名ヲ記載シ其
由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知
シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルト
 キハ其理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ
 申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日
 ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判
 定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其由ヲ被告人所在
 地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉
 區域内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定
 ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ
 七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取り

タルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其裁判ヲ
 爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴
 スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期
 限トシ次年ノ調製ノ日マデ之ヲ据置クヘシ但シ裁
 判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其
 ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改
 正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又
 ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示ス
 ヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議員解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所并ニ投票所管理ノ町村

長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル
第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其一ハ町村長之ヲ管守シ其一ハ立會人之ヲ管守

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ
參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ
空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ
至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用キ
撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各撰舉人
ニ交付スヘシ撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被
撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シ
テ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能サル
由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシ
メ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ
投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於
テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投
票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラルヘ
キ裁判言渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者
アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ
其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事故ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マ

デノ間ニ於テ適宜ニ其投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數等トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異

ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

三 撰舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被撰人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被撰人ノ指名ヲ誤ラサル

爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被撰人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ
第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シ之

ヲ存スヘシ

廿四

第九章 當撰人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當撰人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當撰人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當撰人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當撰人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ其

ノ當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當撰人トナリタル者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當撰ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當撰人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當撰人ニシテ其ノ當撰ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ヒ撰舉ヲ行

廿五

ハシムヘシ但第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當撰ヲ得タル者其當撰ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ當撰人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ并ニ當撰人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章

議員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四個年トス但シ任期ヲ終リタル後仍撰舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員スルニ由リ内務大臣ヨリ補

闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ撰舉區ニ限リ臨時撰舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ撰舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章

投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 撰舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル撰舉人ニシテ刑法

又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ撰舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當撰訴訟

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當撰ヲ失ヒタル者當撰

人ノ當撰ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ
當撰人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當人ノ姓
名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコ
トヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保証金トシテ金
三百圓又ハ之ニ相當スル公債証書ヲ控訴院書記局
ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨ
リ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ
保証金ヨリ之ヲ控除シ仍足ヲサルトキハ之ヲ追徴

スヘシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人
訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ
以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴
院ハ其訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其
ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當撰訴訟ヲ審判スルニ當リ本
訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直
ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ

ハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當撰訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯
罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當撰訴訟ヲ判定シタルト
キハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘ
シ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付
スヘシ

第八十六條 當撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ハ其ノ裁判
ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當撰人ハ其ノ裁判確定
ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當撰訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノハ
外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰 則

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他撰舉資格ニ必
要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラレタル
者ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ
他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以
テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ
撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者
ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

加ス

第九十三條 撰舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多聚ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

犯事者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑
ニ一等ヲ加フ

第九十五條 撰舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加
ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又
ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ却奪シタル者ハ四月以上
四年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑
ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者

ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以
上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑
ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以
テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法
第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑
ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ撰
舉會場ニ入リタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金

ニ處ス

卅八

第九十九條 當撰人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當撰ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲナシタル者及第十四條ニ依リ撰舉人タルコトヲ得サル者投票ヲナシタルトキハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス
第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再セ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下撰舉權及被撰權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此法律ニ規定

シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ依テ處斷ス

第一百四條 凡テ撰舉ニ關ル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及撰舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ

卅九

掌ルヘシ第四條ノ場合ニ於テハ一撰舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル撰舉區内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於ケル撰舉明細書ハ併セテ投票ノ事故ヲ記載スヘシ

第八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此法律ニ規定シタル撰舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第十條 撰舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此法律ヲ施行セス

衆議院議員撰舉法罰則補則

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シ及ヒ其供給ヲ受ケタル者又ハ撰舉人ノ爲ニ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十條

ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虛報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰

金ニ處ス

四十四

第四條 撰舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ撰
舉ノ氣勢ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組
テ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭
ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ
爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者
ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五
拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ
公然揭示シタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ
處ス

第六條 當撰人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラ
レタルトキハ衆議院議員撰舉法第九十九條ノ例ニ
依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員撰舉法第百
四條ノ例ニ依ル

勅令第三號

(明治二十三年一月九日)

衆議院議員撰舉法施行規則

第一條 撰舉人ノ年齢ハ撰舉期日(七月一日)ノ前滿
二十五歳ニ達スルヲ以テ合格トス

第二條 撰舉法第六條第二ニ掲クル住居ノ期限内ニ

四十五

撰舉人其住居ヲ府縣外ニ移シ再ヒ其本籍府縣ニ歸住シタルトキハ時日ノ長短ニ拘ハラズ其期限中斷シタルモノトス但シ旅行中ノ滞在ハ中斷スルノ限リニ在ラス

第三條 撰舉人及被撰人ノ納稅資格ハ地租ニ付テハ撰舉人名簿調製期日(四月一日)ノ前滿一年以上十圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及納ムル者ヲ以テ合格トシ所得稅ニ付テハ撰舉人名簿調製期日ノ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ヲ以テ合格トス
賣買讓與ニ依リ土地ノ所有權移轉ノ場合ニ於テ其

所有ノ年限ヲ算スルハ登記ノ日ニ依ルヘシ
滿三年以上所得稅ヲ納メ及滿一年以上地租ヲ納ムル者其地租及所得稅ヲ併セ十五圓以上ニ及フトキハ納稅資格ヲ有スルモノトス但シ所得稅ヲ納ムル者毎年ノ納額ニ差異アルトキハ其最少額ヲ以テ地租ニ併算スヘシ

第四條 質入地ノ地租ハ其地主ノ納稅資格ニ算入スヘシ

第五條 數人共有地ノ地租ハ之ヲ平分シ各個ノ納稅資格ニ算入ス但シ土地臺帳又ハ附屬帳簿ニ所有權又ハ納稅負擔ノ割合ヲ記入シタルモノハ各其割合

ニ依ルヘシ

四十八

第六條 被撰人ノ年齢ハ撰舉期日ノ前滿三十歳ニ達スルヲ以テ合格トス

被撰人家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ノ納稅資格ハ撰舉法第七條ニ規定シタル撰舉人ノ例ニ同シ

第七條 警視廳ノ官吏ハ撰舉法第十條ノ例ニ依リ東京府内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第八條 郡市ヲ合セ又ハ二郡以上ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉ノ管理ニ關係スル郡ノ官吏ハ撰舉法第十一條ニ規定シタル市町村吏員ノ例ニ依リ其撰舉區内ニ於テ被撰人タルコトヲ得ス

第九條 撰舉法第十二條ニ掲ケタル神官トハ神社ニ奉祀スルヲ職トスル者僧侶及教師トハ教規若クハ宗制ニ從ヒ其分限ヲ有スル者其他何等ノ宗教ヲ問ハス宣教ニ從事スル者ヲ謂フ

第十條 組合町村ニシテ一ノ町村役場ヲ置クトキハ其組合町村ヲ以テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第一ノ場合ニ於テ一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタルトキハ其撰舉一區ヲ以テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第二ノ場合ニ於テ市内ニ在ル數區ヲ合セテ一撰舉區ト爲シタルトキハ其撰舉區ヲ以

四十九

テ一投票區域トス

撰舉法第十九條第三ノ場合ニ於テ郡市ヲ合セテ一撰舉區ト爲シタルトキハ郡ハ町村ヲ以テ一投票區域トシ市ハ其市ヲ以テ一投票區域トス

第十一條 撰舉人名簿ニハ撰舉人ヲ其姓ノ伊呂波順ニ記載シ番號ヲ付スヘシ

第十二條 撰舉人正當ノ事故ニ依リ撰舉法第二十條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ撰舉人名簿ニ登載セラレサルキハ其第二十三條ノ例ニ依リ脱漏ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十三條 撰舉長ノ判定ニ對スル出訴若ハ始審裁判所ノ判決ニ對スル上告ノ爲メニ其判定又ハ判決ノ執行ヲ停止セス

第十四條 撰舉人名簿確定ノ後撰舉人其投票區域外ニ轉住シタルトキハ前住地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ヲ始ル時刻ニ至リ立會人參會セサルトキハ投票所管理者ハ參會シタル撰舉人中ヨリ更ニ立會人ヲ指定スヘシ

第十六條 投票所管理者ハ投票所入場券ヲ製シ遅クトモ投票期日ノ五日前ニ之ヲ各撰舉人ニ配付スヘシ

入場券ノ配付ヲ受ケサル撰舉人ハ之ヲ請求スルコトヲ得此ノ規則第十四條ニ依リ投票ヲ爲サントスル者ハ前項ノ例ニ依リ入場券ヲ請求スルコトヲ得入場券ニハ撰舉人ノ住所姓名撰舉人名簿ニ記載シタル番號及投票ノ場所日時ヲ記載スヘシ

第十七條 撰舉人投票所ニ入ルトキハ入場券ヲ受付掛ニ差出スヘシ撰舉人多數ナル投票所ニ於テハ必要ナルトキハ到着番號札ヲ受取ラシムヘシ

第十八條 撰舉人入場券ヲ紛失シタルトキハ其由ヲ受付掛ニ申立テ投票所管理者ノ承認ヲ得テ入場スルコトヲ得

第十九條 投票所管理者ハ撰舉人ヲ呼出シ其住所姓名ヲ自稱セシメ撰舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スヘシ若シ到着番號札ヲ受取ラシメタル場合ニ於テハ到着番號ノ順序ニ從ヒ番號札ト引換ヘニ投票用紙ヲ交付スヘシ

第二十條 撰舉人誤テ投票用紙ヲ汚染シタルトキハ更ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 投票ハ投票所管理者及立會人ノ面前ニ於テ撰舉人自カラ之ヲ投票函ニ投入シ順次投票所ヨリ退出スヘシ

第二十二條 投票終ルノ時刻ニ至リタルトキハ投票所

管理者ハ其由ヲ宣告シ一時入口ヲ閉鎖セシメ參會シタル撰舉人中未投票セサル者アルトキハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第廿三條 撰舉長ハ各投票所ノ投票函總テ到達シタル翌日撰舉法第四十八條ノ手續ヲ爲シ逐次投票ヲ開披點檢シテ撰舉委員ニ付シ每票先ツ撰舉人ノ姓名次ニ被撰人ノ姓名ヲ朗讀セシメ書記二名以上ヲシテ被撰人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第廿四條 投票點數ノ記入ヲ終リクルトキハ撰舉長ハ各被撰人ノ得點總數ヲ朗讀スヘシ

第廿五條 點檢済ノ投票ハ其有効無効ヲ區別シテ封

緘シ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ之ニ捺印スヘシ連名投票ニシテ其一部無効ナルモノハ無効投票ト共ニ保存スヘシ

第廿六條 天災若クハ其他避クヘカラサル事故ニ依リ投票ヲ行フコトヲ得ス又ハ撰舉會ヲ開クコトヲ得サルトキハ投票所管理者又ハ撰舉長ハ其施行ヲ止メ府縣知事ニ其由ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシメ又ハ撰舉會ヲ開カシムヘシ但シ其期日ハ遅クトモ五日以前ニ投票區域内又ハ撰舉區内ニ告示セシムヘシ

第廿七條 撰舉法第五十八條第二項ノ場合ニ於テ生

年月ノ差ニ因テ當撰ヲ得タル者其ノ當撰ヲ辭シ又
ハ第六十三條ノ期限内ニ其承諾ヲ届出サルトキハ
生年月ノ差ニ依リ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ當撰人
ト定ムヘシ

第廿八條 撰舉法第六十三條ニ掲ケタル届出ノ期限
ハ第六十條ニ依リ當撰人ノ姓名ヲ告示シタル日ヨ
リ起算スヘシ

第廿九條 撰舉法第五十二條ノ撰舉長ノ決定ニ對シ
異議アル者又ハ第七十六條ノ投票所管理者ノ決定
ニ對シ不服ナル者ハ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ
得此ノ場合ニ於テハ撰舉法第二十六條ノ例ニ依ル

第三十條 撰舉長及投票所管理者故障アルトキハ其
附屬ノ官吏又ハ吏員ヲシテ其事務ヲ代理セシムル
コトヲ得

内務省訓令第二號 (明治三十三年一月十七日)

府 縣 沖繩縣

衆議院議員撰舉法及撰舉法施行規則ニ就テハ其事務
及書式等左ノ各條ニ準據シ取扱フヘシ

第一條 衆議院議員撰舉法第十八條ノ撰舉人名簿ハ
別紙第一號ノ式ニ依リ調製スヘシ

第二條 投票所管理者ハ遅クモ投票期日ノ五日前ニ

投票紙ヲ指定シ之ヲ其投票區域内ニ公告スヘシ

第三條 投票所管理者ハ撰擧法第三十三條ニ依リ立會人ヲ定メ之ヲ本人ニ通知スルトキハ其指定シタル立會人ノ内若シ正當ノ事故ニ依リテ其職ヲ辭スル者アルモ仍ホ投票期日ノ三日前更ニ立會人ヲ指名スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存シテ之ヲ通知スヘシ但臨時己ムヲ得サル事故ニ由リ投票期日ノ一兩日前ニ至リ其職ヲ辭スル者アルキハ撰擧法施行規則第十五條ニ依リ投票ノ當日投票所ニ參會シタル撰擧人中ヨリ之ヲ指名スヘシト雖モ投票所管理者ハ豫メ其當日指名セントスル者ヲ定メ前以テ之ヲ其

本人ニ通牒シ置キ投票ヲ始ムル前ニ參會セシメ臨時指名スルニ差支ナカラシムルヲ要ス

第四條 投票用紙投票函入場券及到着番號札ハ別紙

第二號第三號第四號ノ式ニ依ルヘシ

第五條 投票所ハ寺院若シクハ學校等ノ如キ可成門戸アル場所ヲ以テ投票所ニ充ツヘシ

第六條 投票所ノ開閉ハ鑿柝又ハ鐘鼓ヲ以テ報スヘシ

投票所ハ午前六時三十分ニ其門戸ヲ開キ午後六時ニ之ヲ閉ツヘシ

第七條 投票ハ所別紙第五號甲乙ノ式ヲ標準トシ撰

舉人員ノ多少ニ因テ適宜之ヲ斟酌シ受付所撰舉人
扣所投票用紙交付所投票記載所投票ノ場所等ヲ區
別シ之ヲ設クヘシ

第八條 午前七時ニ於テ投票所管理者ハ參會シタル
撰人舉ヲ投票用紙交付所ノ入口ニ招集シ撰舉法第
三十六條ニ因リ立會人ト共ニ投票函ノ空虛ナルコ
トヲ撰舉人ニ示シ且撰舉人ノ面前ニ於テ其第一蓋
ノ錠ヲ卸シ之ヲ投票所管理者及立會人列席ノ卓上
ニ置キタル後到着番號ノ順序ニ依リ適宜撰舉人數
名ツ、ヲ呼出シ投票用紙交付所ニ入ラシメ撰舉法
施行規則第十九條ノ手續ヲ爲シ投票用紙ヲ交付ス

ヘシ

第九條 撰舉人ニ投票用紙ヲ交付シタルトキハ投票
記載ノ爲メニ設ケタル卓上ニ於テ記載セシメ直ニ
投票ヲ爲サシムヘシ
投票記載ノ爲メニ設ケタル卓上ニハ呼入レタル各
撰舉人遲滯ナク記載シ得ル丈ケニ數個ノ筆視舉ヲ
備ヘ置クヘシ

第十條 撰舉人出入ノ門戶及投票所出入口等ハ警察
官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ニ於テ取締ヲ爲スヘ
シ

第十一條 投票函ヲ閉鎖スルトキハ直ニ其第二蓋ノ

錠ヲ卸シ其第一蓋ノ鑰ハ立會人ニ於テ保管シ第二蓋ノ鑰ハ投票所管理者之ヲ保管スヘシ

第十二條 投票明細書ハ別紙第六號書式ニ因リ之ヲ製スヘシ

第十三條 撰舉法施行規則第二十三條ニ因リ被撰人ノ得點ヲ記入スヘキ點數簿ハ別紙第七號ノ式ニ依リ之ヲ調製シ其記入毎ニ之ヲ記入スル書記ノ一人其被撰人ノ點數ヲ呼フヘシ

第十四條 撰舉明細書ハ別紙第八號書式ニ依リ之ヲ製スヘシ

撰舉明細書ハ副本ヲ製シ撰舉人又ハ被撰人ノ請求

アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムヘシ

第十五條 撰舉法第六十五條ニ因リ府縣知事ヨリ當撰人ニ付與スヘキ當撰証書ハ別紙第九號ノ式ニ依ルヘシ

第十六條 投票所ハ何郡(市區)何町村投票所ト記シ撰舉會場ハ衆議院議員第何撰舉會場ト記シ各門戸ニ之ヲ掲クヘシ

(書式ハ別ニ頒ツ)

(書式略ス)

法律第六號

(明治二十二年二月二十六日)

府縣會議員撰舉規則

第一條 戸長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ撰舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

撰舉人名原簿ニハ撰舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額并ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戸長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ撰舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

撰舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ撰舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財產ヲ相續シタル者ハ前財產主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムル時ハ其納稅地區戸長ノ證狀ヲ添へ撰舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戸長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サ、ル納稅額ハ撰舉及ヒ被撰舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及ヒ撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アル者ハ撰舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタ

ルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタ

ルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラズ速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戸長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

毎年確定ノ撰舉人名簿ハ臨時ノ補闕撰舉ニモ之ヲ使用スルモノトス

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕撰舉ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情況ニ依リ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ變更

スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ撰擧スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、撰擧開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、撰擧ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ撰擧スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増撰ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

撰擧開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ撰擧開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ撰擧人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ撰擧ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰擧ノ當日撰擧會場ニ參會セシムヘシ

撰擧分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ撰擧人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ撰擧開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ撰擧人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ撰舉會長トナリ撰舉會場ヲ管理
スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ニ
充ツヘシ

撰舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命
スベシ

第十九條 撰舉人ハ撰舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖
ノ時刻ニ至ル迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投
票スルコトヲ得

第二十條 撰舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ撰
舉録並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ
投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰舉人ノ面前ニ於

テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ
各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用キ投票ノ當日撰舉會場
ニ備ヘ置キ撰舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各撰舉人ニ
交付スヘシ

用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ増撰ヲ要スル場合ニ於
テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用
紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ

第二十二條 撰舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託
スルコトヲ得ス

第二十三條 撰舉人ハ撰舉會場ニ於テ投票用紙ニ被

撰舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ

第二十四條 撰舉人投票ヲ爲サントスルトキハ撰舉會長ハ其住所氏名ヲ撰舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ撰舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ

第二十六條 撰舉ニ關スル吏員及撰舉人ノ外何人タリトモ撰舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス

第二十七條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルユトヲ得ス但記載セラルヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス

第二十八條 撰舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 撰舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ撰舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之

ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル
爲メ再ヒ之ヲ呼入ルヽコトヲ得

撰舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警
察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投
票セントスル者アルトキハ撰舉會長ハ其投票ヲ取
上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ撰舉會
長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時撰舉會場ノ入口
ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セザリシ者ナ
キヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメ

タル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 撰舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記ニ
人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ撰
舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投
票ヲ取出シ披封點檢シテ之レヲ書記ニ付シ撰舉人
被撰舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲ
シテ被撰舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ
之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部ニ抹線ヲ
加フヘシ

第三十四條 撰舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ各被撰舉人得點ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入并ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ撰舉會長并ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ撰舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被撰舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取リ同年ハ抽籤ヲ用ヒ其當撰ヲ定ムヘシ但即時ニ其

當撰ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得
分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當撰ヲ定ムルモノトス
當撰タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被撰舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當撰者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ
當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當撰ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢済ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰

舉會長立會人并ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區

役所ニ保存スヘシ若シ撰舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告

發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマ

デ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ撰舉録中ニ記入スヘシ

一 撰舉開會ノ月日并ニ時刻

二 撰舉會長及ヒ書記ノ氏名

三 立會人ノ住所氏名

四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ

其顛末

五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末

六 投票函閉鎖ノ時刻

七 各被撰舉人ノ得點數

八 當撰人ノ住所氏名若シ直ニ當撰ヲ定メ難キト

キハ其事由

九 撰舉閉會ノ時刻

十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當撰ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記ス

ヘシ

第四十條 撰舉録ニハ撰舉會長立會人并ニ書記之ニ

署名捺印スヘシ

第四十一條 當撰タルヘキ多数ヲ得タル被撰舉人他
郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡區長ニ
照會シ被撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ
若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例
ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書
ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在
ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

- 三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ
知ルヘカラサルモノ
- 五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入ス
ルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモ
ノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
- 六 被撰舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タ
ルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被撰舉人ニ
付テハ仍ホ其効アリトス
- 七 被撰舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被
撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被撰舉人其撰舉スヘキ定數ニ足テサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ルモノアリト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 撰舉人又ハ被撰舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ撰舉シタルコト明瞭ナルトキハ其ノ投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ撰舉會長之ヲ決定スヘシ其ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ撰舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ己ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ撰舉分會ヲ設クルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ撰舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ撰舉人名簿中ニ各撰舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會所屬ノ區域并ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時
 間モ又本會ト同一タルヘシ其他撰舉ノ手續會場ノ
 取締撰舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼
 其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ
 期日ヲ異ニシテ撰舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函
 ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會撰舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之
 ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶
 長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ

之ニ封印シ撰舉會長及ヒ書記ノ中少クモ一名付添
 直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他人撰舉
 人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投
 票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第三十三條
 ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ
 第五十一條 當撰者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直
 ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ

當撰者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當
 撰承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當撰ノ通知ヲ爲シタ
 ル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ

當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

當撰ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當撰者ト爲スヘシ

第五十二條 撰舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當撰者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補闕員ヲ增撰スルトキハ其撰舉ハ正議員撰舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補闕員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者ヲ以テ補闕員當撰ト爲スヘシ

第五十六條 當撰ノ査定ニ不服アル關係者ハ當撰者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當撰者確定ノ後其當撰者ノ被撰舉權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當撰ト爲スヘシ但此場

合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 撰舉全會ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ命スルハ其撰舉ノ撰舉規定ニ違フ場合ニ限ル但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ撰舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニアラス

撰舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓

以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當撰者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者ト爲リタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ

若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者モ亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入リタル者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰舉人ヲ脅嚇スル者又ハ撰舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留、毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知リ嘯集ニ應シタルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑

ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第六十六條 撰舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ

投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以

上ニ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 撰舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿

免除トス

第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條

第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢

止ス

附 則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時

期ニ拘ハラズ撰舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシ

メ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ

前項ノ名簿調製前議員ノ撰舉ヲ要スル府縣ニ於テ

ハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規

則ニ依ルヘシ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於

テ之ヲ行フヘシ

法律第二十八號

(明治二十二年十一月七日)

議會並議員保護規定

第一條 法律ヲ以組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシメルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加重キニ從テ處斷ス

法律第三十九號

（明治二十三年五月二十九日）

市町村會議員撰舉罰則

第一條 凡テ撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉會場ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ撰舉會場ニ往復スル爲メ車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ノ爲ニ撰舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス
其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ

爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅逼シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上

二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 撰舉人ヲ脅逼シ若クハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十條 撰舉ノ際撰舉ニ關スル吏員若クハ撰舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上

三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 撰舉會場所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢

ヲ張ル爲メ多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍ホ其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ撰舉會場ニ入り

タル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ撰舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當撰人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制并ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員撰舉ニモ適用ス

法律第四十一號 (明治廿三年五月廿九日)

明治廿二年二月法律第六號府縣會議員撰舉規則ニ依ル撰舉ニハ府縣制ヲ施行スル迄ノ間衆議院議員撰舉法罰則補則ヲ適用ス但其第二條第一項ニ衆議院議員撰舉法第九十二條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議

員撰舉規則第六十二條其ノ第三條第二項ニ衆議院議員撰舉法第九十三條ヲ適用スル場合ニ於テハ府縣會議員撰舉規則第六十三條ヲ適用スルモノトス
府縣會議員撰舉規則中此法律ニ矛盾スルモノハ効力ヲ有セズ

○法律第五十三號

(明治廿三年七月廿五日)

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ共同スルモノヲ謂フ政社ト稱スル

ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

届書ニハ集會ノ場所年月日時並ニ發起人及講談論議者ノ氏名住所年齢ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セ

サルトキハ届出ノ効ヲ失フモノトス

第三條 日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男女ニ
アラサレハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條 現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人
警察官官立公立私立學校ノ教員學校生徒未成年者
及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス
法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員撰舉準備ノ爲ニ
開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ撰舉權
ヲ行フヘキ者及被撰舉權ヲ有スル者ニ限り本條ノ
制限ニ依ルヲ要セス

第五條 政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者

タラシムルコトヲ得ス

第六條 政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條 凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動
セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同
スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄
警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬公社學
校生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモ
ノハ此ノ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ届出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリ
ト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何

等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得
第十條 凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此限ニアラス

第十一條 凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條 會場ニ於テ故ヲ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ開散ヲ命
スルコトヲ得

- 一 集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ
- 二 第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害
アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ全會ヲ散解セスシテ單ニ其
ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

- 三 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ
供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

- 四 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セ
サルトキ

五 第四條第十條ノ違反者多數ニシテ警察官ヨリ

退場ヲ命スルモ其命ニ從ハサルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲナサスシテ政談集會ヲ開
キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルト
キハ發起人罰前條ニ同シ

第十六條 第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同
シタル者及其ノ之ヲ制止セサル發起人ハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條 第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第七條ニ背キタル片ハ發起人及教唆人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ニ背キタルトキハ發起人及教唆人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ是ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條 第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 政社ニハ役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第二十四條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八

時以前ニ届出タルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條 現役及召集中ニ依ル豫備後備ノ陸海軍人警察官官立公立私立學校ノ教員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

第二十六條 政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條 政社ハ標章及旗幟ヲ用キルコトヲ得ス
第二十八條 政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘

導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スル
コトヲ得ス

第二十九條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議
會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於
テ責任ヲ負ハセシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條 凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認
ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ
禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二
月以上三年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以
下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二十三條ニ背キ政社ノ届出ヲ爲サ、

ルトキ又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其ノ役
員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又
ハ尋問ヲ受ケテ詐偽ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ
照シテ一等ヲ加フ

第三十二條 第二十五條ニ背キ入社シタル者及ヒ入
社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ
處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條 第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用キタル
者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

第三十四條 第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員
及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實
アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスル
ニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例
ヲ用キス

第三十七條 此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六
月トス

第三十八條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此法律ニ
依ルノ限ニアラス

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸
福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必
要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十年十二月廿五日

内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文
内務大臣 伯爵 山縣有明
司法大臣 伯爵 山田顯義

勅令第六十七號

百廿三

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之

ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 内乱ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

百廿四

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ルヽコトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内乱ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得
退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動乱ニ由リ又ハ内乱ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

- 一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事
- 二 新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四 旅人ノ出入ヲ檢査旅券ノ制ヲ設クル事

第六條 前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條 本條ハ發布ノ日ヨリ施行ス

朕公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ樞密顧問ノ諮詢ヲ

經テ豫戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十五年一月二十八日

內閣總理大臣 伯爵 松方正義
司法 大臣 子爵 田中不二麻呂
內務 大臣 子爵 品川彌二郎

●勅令第十一號

豫戒令

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得

- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
 - 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
 - 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干涉シテ其事由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
 - 四 第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者
- 第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ
- 一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス

- 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 三 如何ナル口實ニ拘ハラヌ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ渉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨

害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行爲ニ
干涉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスル
ノ所行ヲ爲サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受
ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコト
ヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第
二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號
第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號
ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル
者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルト
キハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄
警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新
住居ノ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令
又ハ第三條ノ規程ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從
ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違反者ハ三日以上十日以下ノ拘留
ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處
ス

第二條第二號ノ違反者ハ十一日以上二月以下ノ重

禁錮ニ處ス

百廿三

第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違犯者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作リ其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令

第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下附シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ後改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本例ノ施行ニ關

百廿四

スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ
怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百
圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監
獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治廿六年三月二日印刷
同 年同月六日出版

(非賣品)

編纂 富山縣警察部
發行

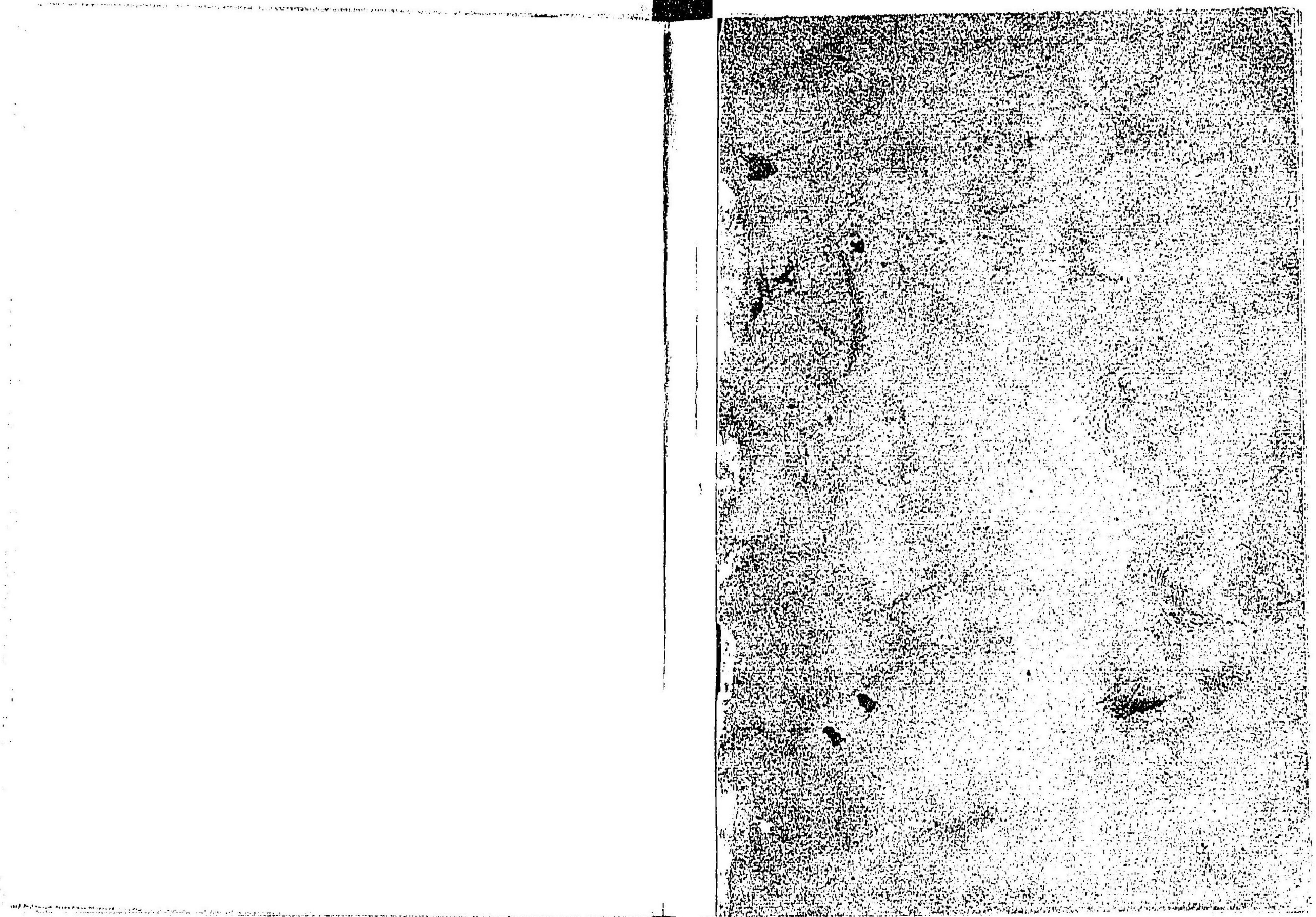
富山縣富山市大字中町四番地

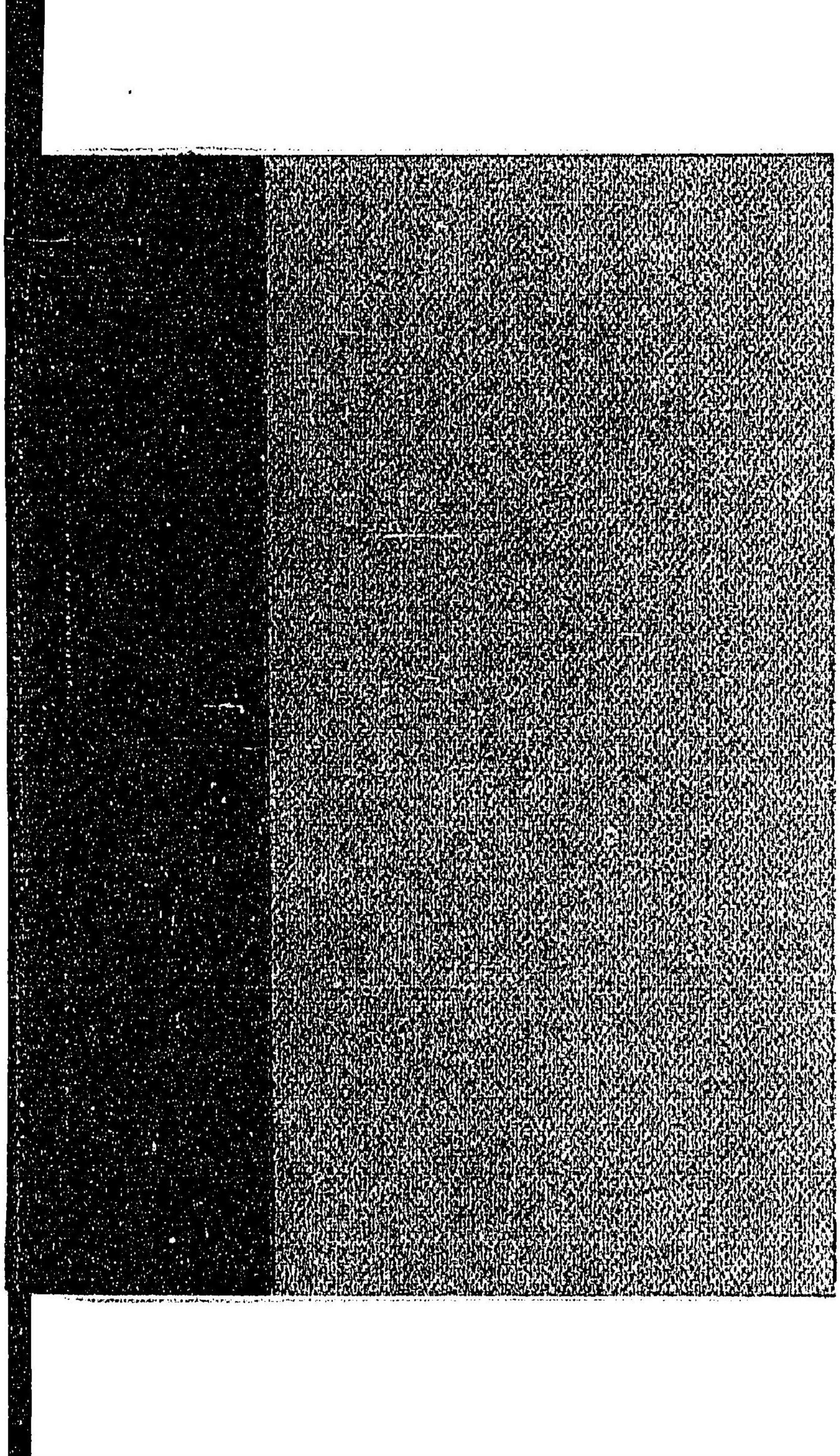
印刷 若林元四郎



[Faint, illegible text on the left side of the page, possibly bleed-through from the reverse side.]

[Faint, illegible text on the right side of the page, possibly bleed-through from the reverse side.]





国立国会図書館

法規提要

CZ
251
019



031982-000-7

CZ-251-019

法規提要

富山県警察部

M26

BBF-0152

